

<3> 船橋の塩業の歴史

- ①東京湾北部での塩業は、室町時代末には始まっていた。
- ②東京湾北部の塩田の村々は、「行徳領」として管理されていた。
- ③江戸幕府は戦略上この塩業を保護した。
- ④元禄の頃（1638～1704）になると、下り塩に押され衰退。
- ⑤享保の頃（1716～1736）、幕府は戦略上保護。
- ⑥天明の頃（1781～1789）、江戸の町の発展、醤油醸造の増加から反映
西海神村の塩田も再興される
- ⑦明治に入ると船橋村に塩田が延びる。国内塩の生産量が伸びる。
- ⑧安価・良質な外国塩対応として明治38年（1905）6月、塩の専売制度を実施。（1929）
⑨大正6年（1917）の大津波（東京湾台風）の被害、昭和4年～5年（1929～30）の第二次塩業整備で撤退が進む。
- ⑩戦後の昭和29年（1954）のキティ台風で行徳塩田は終わる。

<4> 海神支線

昭和4年12月に総武鉄道（11月22日 - 北総鉄道が総武鉄道に改称）が、総武鉄道船橋駅から京成海神駅まで敷設した鉄道支線、昭和9年に廃線になる。

<5> 葛飾郡について

東は船橋市・習志野市境、西は隅田川、北は古河市の広大な郡であった。
現在は、北葛飾郡松伏町・杉戸町のみ葛飾郡名が残る。。

